



# 道徳ノートの効果的活用法紹介

大分県大分市立明治小学校 主幹教諭  
岩田 予吏子



## 1. 指導体制をそろえて学習規律を育てる

本校は、全校児童1,156名、39学級という大規模校です。職員も62名おり、その中で3分の1が教職10年未満の若手教師です。毎年新任の教師も入ってきます。これからは、若い先生がどんどん増えていく時代です。経験が浅い教師でも、授業が成立する環境を整えることが必要です。

そのための体制づくりとして、学校の重点目標に「そろえる」を挙げています。

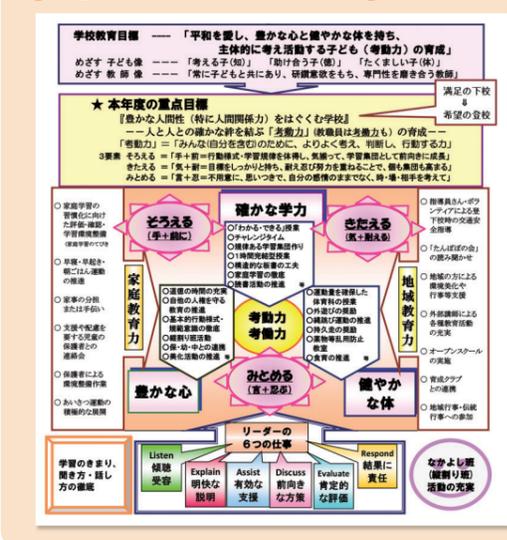
### 【授業規律を全校で統一(共有)して徹底する】

- 1時間完結の授業の流れ
- 板書と一体化したノートの取り方や評価の仕方
- 教材やテスト、教師の使う集計ソフト

教師の意識や子どもへの指導を【全校でそろえる】ことで、落ち着いた深まりのある学習ができるようになります。

道徳ノートも昨年度から全校で同じものを使っています。教師によるノート指導の方法が毎年変われば、それが定着するまでに時間がかかり、子どもたちにも戸惑いが生まれるでしょう。全校でそろえて使い慣れることで、学年が上がってもスムーズな授業展開につながり、学びも深まっていくと考えます。

### 【明治小学校グランドデザイン】



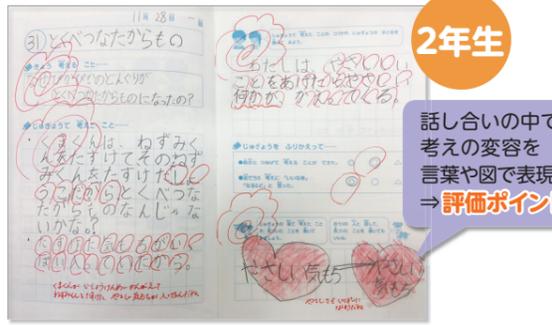
## 2. 評価に役立つ道徳ノート

「特別の教科 道徳」が全面实施となって2年目を迎えました。教師のいちばんの関心と悩みは道徳科の評価です。30～40人の学級の子どもの学びを授業中に全て見取ることは難しいです。そこで役立つのが道徳ノートです。

子どもは、他の教科と同じように道徳ノートに考えを書くことによって、頭で考えたり話し合ったりしたことが明確になり、自分の思考を整理することができます。視覚化・顕在化できるので、友達と見合い、感想を出し合うことで、自分の考えをフィードバックできます。

さらに、教師がコメントを書いて子どもの考えを意味づけしたり、家庭に持ち帰り家族で話をしたりすることで、授業後も自主的な学びを促すことができます。目に見えない個人内の思考の深まりを、成長の記録として見取ることもできます。「多面的・多角的に考えることができたか。」「自分自身につなげて考えることができたか。」という視点に添って評価するためにも、道徳ノートの役割は思った以上に大きなものです。

そういう道徳ノートがもたらす効果を教師全体で共有していけるのも【全校でそろえる】メリットです。



「思考ツール」を参考にしたグラフなど ⇒ 考えの可視化



## 3. 道徳ノートの長を授業に生かす！

数社の道徳ノートを比較検討した結果、光文書院の「ゆたかな心を育てる道徳ノート」を採用しました。比較的自由度が高く、使い方や指導のヒントに加え、**心情円盤**や「思考ツール」などが付録で付いていることなどが選定のポイントになりました。

これまで、ワークシートを使う教師が多かったのですが、道徳ノートを使い始めてから戸惑う様子もみられました。しかし、使っていくうちに、印刷などの手間が省けるだけでなく、子どもたちが使い方を身に付けスムーズに学習を進めることができることを実感できました。

### 【道徳ノート活用のメリット】～全教員アンケートより～

- ▶ 学年が上がっても系統的に学びが積み重ねていける。
- ▶ 書く内容を限定しすぎず、最低限の指示文により子どもがどんどん書き進めることができる。
- ▶ 心情円盤の活用により、自分の考えや友達の考えの可視化ができ、考えの交流を促すことができる。
- ▶ 「道徳ノートの使い方」で、子どもたちに書くことの意義やノートのまとめ方を指導することができる。子どもたちも、それをもとに自分なりの工夫をしはじめた。
- ▶ 「思考ツール」の掲載があり、考え方やまとめ方についても学習でき、ノートを見合うことで学び合える。
- ▶ 「教師用書」で、教師も道徳ノート指導の本質や方法が理解できる。
- ▶ 友達や他学年のノートに興味をもち、道徳学習に対する関心が高まっている様子がうかがえる。

### 子どもの反応



### 光文書院の道徳ノート

付録「心情円盤」(1～6年)

【学校納入定価】  
5年 170円 (消費税込み)

・1～6年  
・A4大判・48ページ  
・「教師用書」(A4判) 16ページ付き

## 4. 教師の学び合いと道徳ノート

道徳ノートをそろえたことで、授業づくりや評価についても学び合うことができます。

6月の期末整理前に「道徳ノートをどう評価につなぐか」という職員研修を行いました。ノートを持ち寄り、見せ合う中で、困りや工夫を出し合い、よりよい活用の仕方話し合いました。さらに、4つの視点から評価できる記述にラインを引いて書き抜き、学習状況や学びの高まりを見取る作業を行いました。最後に、各自数名分の通知表所見を作成し、全員で出し合いました。

ローテーション授業を行っている学年もあります。一つの教材で5クラス分(5回)の授業を実施するので、教師のブラッシュアップになると共に、他のクラスや学年全体の様子も把握できます。ここでも道徳ノートをそろえていくことでスムーズな授業が行えます。

2学期末には、ノートの困りや改善点を出し合いました。これらは授業づくりにつながるもので、板書やノート指導の在り方、「めあて」や「課題」の質についてなど、学校全体で見直すきっかけとなっています。

### 【道徳ノートで困る点や改善点】

- ▶ 書く力のある子は工夫したノートになっているが、そうでない子はノートがなかなか埋まらない。
- ▶ ノートは横書きだが、板書が縦書きの場合書きにくい。
- ▶ 「今日考えること」に書かせるのは「めあて」か「課題」か、統一が必要。
- ▶ 振り返りをたくさん書かせたいが、スペースがせまい。

今後も、道徳ノートを活用した授業づくりについて研修を深めていきたいと思います。授業と授業をつなぐことはもちろん、授業と日常生活をつなぎ、思考を継続させるツールとして、よりよい活用の仕方を共有していきたいと考えています。

### 【道徳ノートの使い方】(4年生の例/各学年の巻頭見開きで紹介)

